

学校関係者評価書

2019年4月1日～2020年3月31日

東京・iスマートビジネス専門学校

2020年5月15日作成

目 次

1	学校の理念、教育目標	1
2	重点目標と達成計画	1
3	重点目標達成についての学校関係者評価	2
4	学校関係者評価	3

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>学校教育法に基づき、社会人として必要なビジネスに関する専門知識を教授し、外国人に対して日本語を教授することができる知識の習得と人間力を養うことで、グローバル化する我が国において外国人とコミュニケーションを取りながらビジネスができる人材を育成することを目的とする。</p>	<p>本校は礼儀、責任、融和を校訓とし、世界で活躍できるビジネスマンとしての育成、健全な人格形成を目指し、次の三項目を教育目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンスキルの獲得 ビジネスに欠かせないコミュニケーション力・交渉力の習得 2. テクニカルスキルの向上 常に向上心をもち、世界情勢や環境の変化に柔軟に対応できる高い業務遂行能力の体得 3. コンセプチュアルスキルの育成 ビジネスリーダーとして活躍していくための俯瞰力・問題解決能力の育成

2 本年度の重点目標と達成計画

2019 年度重点目標	達成計画・取組方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学定員確保 2. 学生満足度 100% 3. 資格取得率 100% 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入学定員確保 <ol style="list-style-type: none"> ① 学校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する ② 認知度向上のため Web・SNS・紙媒体等による発信を強化する 2. 学生満足度 100% <ol style="list-style-type: none"> ① 3ヶ月に1回以上の面談を実施する ② 職員会議にて学生状況の共有を行い、欠席者は適宜、面談する 3. 資格取得率 100% <ol style="list-style-type: none"> ① カリキュラムに資格対策を取り入れる ② 進路指導の一環として資格取得への意識づけを十分に行う

3 重点目標達成についての学校関係者評価

2019 年度重点目標	達成状況	学校関係者評価
<p>1. 入学定員確保</p> <p>① 学校訪問・ガイダンス・学校説明会を強化する</p> <p>② 認知度向上のため Web・SNS・紙媒体等による発信を強化する</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>① 3 ヶ月に 1 回以上の面談を実施する</p> <p>② 職員会議にて学生状況の共有を行い、欠席者は適宜、面談する</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <p>① カリキュラムに資格対策を取り入れる</p> <p>② 進路指導の一環として資格取得への意識づけを十分に行う</p>	<p>1. 入学定員確保</p> <p>2020 年度 入学者 41 名（日本人 2 名、留学生 39 名）</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>①年間を通じて、学生一人につき概ね 4 回程度の面談を実施した。</p> <p>②連続欠席者については、個別面談や家庭訪問等を含めて対応に努めた。</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報処理表計算（準 2 級）－85% ●文書デザイン 3 級－89% ●日本語能力検定 N1－14% ●日本語能力検定 N2－25% 	<p>1. 入学定員確保</p> <p>留学生の入学者は、入学試験などにおいて合格基準を厳格化したため、定員の確保はできなかったが、募集活動の工夫は実施されている。日本人学生に関しては、学科の特性にマッチした学生は少ないように思われる。今後の検討課題である</p> <p>2. 学生満足度 100%</p> <p>授業カリキュラムについて、ビジネス関連の教科の再編成を後期に行ったことは評価できる。また、各教室にプロジェクタを設置し、視覚教材を取り入れた授業展開も学生からの評価が高い。生活環境では、図書室、談話スペースの有効活用が行われた。今後は、就職支援に関して強化をして欲しい。</p> <p>3. 資格取得率 100%</p> <p>授業カリキュラムと資格検定の紐づけが行われ、学生の意識も向上していることがわかる。</p> <p>今後は、就職に有利になる資格検定の合格を目指してほしい。</p>

4 学校関係者評価

1. 教育理念・目的・人材育成

留学生においては、パソコン関係の資格の受験も実施され、合格率も良かった。日本語力はもちろんおこと、ビジネススキルを兼ね備えたビジネスパーソンの育成に力を注ぎ、世界で活躍できるブリッジ人材の育成に貢献している。2020年度は、就職指導に重点を置き、卒業生が希望する企業に就職できるように支援を期待する。また日本人学生については3年間の教育期間のなかで、各自のキャリア教育を行い、自分の将来について真剣に考える機会を設けていることは、評価される。

2. 学校運営

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備において若干の具体的検討が必要である。その他の学校組織運営に関して著しい問題はなく、学園本部と物理的距離は離れているが、法人の専任本校担当の定期的訪問などを通じよく連携されている。

3. 教育活動

教育活動全般については各教科と資格取得の関係を強め、学生の意識向上に努めていることは評価できる。今後は、資格合格率の向上に向けての対策を検討していただきたい。

4. 学修成果

退学率については、留学生のビザ更新不許可や、経済的な理由による進路変更をする学生が多かった。今後は、問題の早期発見、対応を迅速におこない、休退学を未然に防ぐことが必要である。資格取得について基本となるビジネス系資格について幅広く、取得を必須としている点は評価できる。

5. 学生支援

経済困難な学生への救済手段として、学納金分割について柔軟に対応している。学校独自の学費減免制度の導入、新聞奨学生制度の導入など学費面での優遇を行っていることは評価できる。留学生の支援として留学ビザの更新のサポートやアルバイト状況の管理など職員が支援をこなっており学校生活面へのサポートが充実している。

6. 教育環境

教育環境について視覚教材（プロジェクターを各教室に常設）の充実により教育効果の向上が期待できる。その他、特に問題となる点はない。

7. 学生募集

本年度の取組でも既述したように募集活動については適正にして充実した取り組みが行われているが、本校の魅力を多くの入学対象者に伝え、新入生確保に努められたい。twitter、Facebook、LINEなど新しいSNSメディアの活用も評価される。

8. 財務

財務関係について問題となる点はない。

9. 法令等の遵守

法令遵守について問題となる点はない。

10. 社会貢献・地域貢献

今年度、社会貢献・地域貢献はできていないが、今後は地域住民との連携も必要であると思われる。

学校法人小倉学園専門学校 東京・iスマートビジネス専門学校 学校関係者評価委員会は、自己評価報告書査読、学校施設見学ならびに学校自己評価委員からの報告を受け、当学校が文部科学省専門課程の要件を満たし、適切に運用されている学校法人であると判断した。